

群馬大学広報誌 "グッデイ"

GU'DAY

December 12
2018



特集 数理データ科学教育研究センター / 食健康科学教育研究センター

従来型の社会が大きく変化している中、新しい社会の基盤となるのは、最先端の技術開発や未来を担う人材であり、その育成には教育・研究組織の改編や改革の必要があります。

そのような中、本学は、2017年12月1日付けで「数理データ科学教育研究センター」と「食健康科学教育研究センター」を立ち上げました。

数理データ科学教育研究センターでは、超スマート社会(Society 5.0)に対応する基盤的な教育研究を実施します。本学では、従来から情報分野の教育研究に取り組んでおり、さらに、未来先端研究機構ビッグデータ統合解析センターや次世代モビリティ社会実装研究センター等も情報収集機能を有していることから、実データを用いた数理データ科学に関する教育研究に強い特色を持っています。

食健康科学教育研究センターでは、全国有数の農業県の強みを活かし、医学系では主に食の健康への影響を、理工学系では食品関係の研究を行い、地域産業の振興や健康寿命の延伸に貢献し、地方創生を目指します。

このように、全学的にリソースを結集させ、群大発の研究成果を地域や世界へ羽ばたかせていきたい考えです。

群馬大学長

平塚浩士



群馬大学SNSアカウント

※検索窓をクリックすると、各SNSアカウントへとびます。

フォロー・
チャンネル登録
お願いします。



@gunma.university



gunma_univ



群馬大学公式チャンネル



今月号の表紙

群桐祭「G F Lサイエンステクノ」

10月20日、21日に開催された群馬大学桐生
キャンパスの学園祭「群桐祭」での一コマ。
群桐祭の実行委員長に当日の様子を伺いました。
(⇒7ページ：実行委員長に聞く！！群馬大学の学園祭)

GU'DAY

December 2018

特集 ... **3**

数理データ科学教育研究センターの
活動 ... **3**

食健康科学教育研究センターの
活動 ... **5**

実行委員長に聞く
群馬大学の文化祭
～群桐祭～ ... **7**

Media -Pick up ... **9**

行事 ... **10**

群馬大学基金 ... **10**

数理データ科学教育研究センター

情報学で地域貢献を目指す

第4次産業革命や超スマート社会（Society5.0）と謳われる社会を支える革新的基盤技術である人工知能・ビッグデータ、IoT、統計手法等のデータ利活用技術が経済発展の鍵を握る中、これら革新的技術を担う人材の育成が喫緊の課題です。今やどの産業分野においてもデータ（情報）の利活用は必須で、どのような職に就いてもデータ利活用のリテラシーが必要であるため、政府も様々な施策を通じて人材育成等を推し進めています。

群馬大学では、これまで社会情報学部における社会科学に基礎を置く情報分野と、理工学部電子情報理工学科における情報学基礎理論を中心とした情報分野の教育研究に取り組んでおり、さらに、未来先端研究機構ビッグデータ統合解析センターや次世代モビリティ社会実装研究センター等の情報収集機能も有していることから、実データを用いた数理データ科学に関する教育研究に強い特色を持っています。このような背景の下、群馬大学では地方に立地する国立大学として、広く社会の要請・期待に応えるために、2017年12月に数理データ科学教育研究センターを設置しました。センターでは、超スマート社会の基盤支援に向けて、情報数理及びデータ科学を中心とした情報学分野の教育を展開し、これらの素養を持った人材の育成及び研究の推進を使命としています。

4つのミッション

1. 情報数理・データ科学に係る人材育成
2. 情報通信技術(ICT)を活用した教育法の研究・活用
3. 情報数理・データ科学の研究促進
4. データ管理の審査・承認の支援

センター設置から1年。ミッション遂行に向け実施してきた、様々な活動をご紹介します。

人材育成のための取組み

群馬大学の教養教育

文理を問わず全ての学生が一般教養として数理情報及びデータ科学に関するリテラシーを身に付けられるよう、学部1年生を対象として数理データ科学関係の講義の受講率を、2022年3月までに100%とすることを目指しています。2018年度は本センター教員が数理データ科学に関する教養教育科目を開講し、当該科目の履修者数は初年次学部生の22.6%となりました。

リカレント教育

早稲田大学を代表校としたenPiT-Pro「スマートシステム&サービス技術の産学連携イノベティブ人材育成」の分担校として、「IoT+ビジネス」という観点でのリカレント教育を担い、情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成に向けた活動を行いました。

他機関との交流・連携

2018年6月に数理データ科学セミナーを開催し、データサイエンス拠点校の大阪大学、オペレーションズ・リサーチ分野の専門家が在籍する筑波大学におけるICTやデータを高度に利活用できる人材育成の取組を学びました。

ICTを活用した教育法の研究と利活用

プログラミング教育モデルの確立に向けた取組み

2018年8月に2020年度から実施される学習指導要領に盛り込まれたプログラミング教育について、教育学部附属小学校と協働で初等教育における体系的な教育モデルの確立を目指すことを目的とした研修会を開催しました。



プログラミング研修会

数理データ科学の研究促進

産学官連携の促進

2018年9月にシンポジウム～データ利活用が切り開く未来社会～を、産学官の関係者約100名を集めて開催しました。データ利活用が切り開く未来社会像がより具体化され、今後センターが果たしていくべき役割が明確なものとなりました。

2018年11月にMatching HUB Kanazawa 2018に参加しました。本センターとしては初めての産学官連携を目的とした出展イベントへの参加でしたが、数理データ科学に関する社会のニーズ・期待の高さを改めて痛感しました。



Matching HUB Kanazawa 2018

群馬大学オンサイト施設の整備

2018年8月に統計数理研究所と包括的な研究教育協力協定を締結し、数理データ科学に関する研究の促進及び人材の育成を積極的に進める体制を整えました。2019年4月からはオンサイト施設を統計の作成や研究を行う研究者等を対象に外部にも公開し運用する予定です。この施設では、国等の機関所管の26調査票情報を閲覧し、データ分析をすることができます。（※）また、所定の手続をすれば、当該分析データの提供を受けることもできます。

※科学研究費助成事業による課題番号を有する研究のために閲覧する場合、あるいは、過去に同事業による課題番号を有していた研究で、その内容を発展させるものなどが資格に該当します。

数理データ科学教育研究センターHPはこちら



群馬の食は世界を目指す!

食健康科学教育研究センターは「食と健康」に関わる研究の推進、専門人材の育成により、大学の教育研究及び社会貢献活動等の向上に貢献すること、そして、地方公共団体や産業界等と連携して地域産業の振興や社会における健康増進に貢献することを目指し、2017年12月に設置されました。設置からちょうど1年目を迎え、これまでの活動と今後の展開について紹介します。

現状とミッション

～文理融合で教育研究、地域貢献を目指す～

群馬県は農業が盛んで大消費地の首都圏と近接し、食品産業は県内の工業出荷額の2番目に位置しており、地域にとって重要産業分野の一つとなっています。また、近年の食品業界のニーズは「安心・安全・美味しい」に留まらず、国民の食に対する健康志向の年々の増加を受けて「健康・美容」などの展開が図られており、食の機能性のエビデンスベースでの評価等による高付加価値化への取組は益々期待されています。

群馬大学では、医学系研究科、保健学研究科における食の安全安心に係る分析機能、生体調節研究所における生活習慣病の予防開発機能、理工学府における食品開発・先端加工・製造技術の教育研究機能、さらに教育学部や社会情報学部における食育、健康志向、ブランディングの教育研究機能等、文理の広い分野において食と健康に係る教育研究及び地域貢献に資する機能を有しています。

5つのミッション

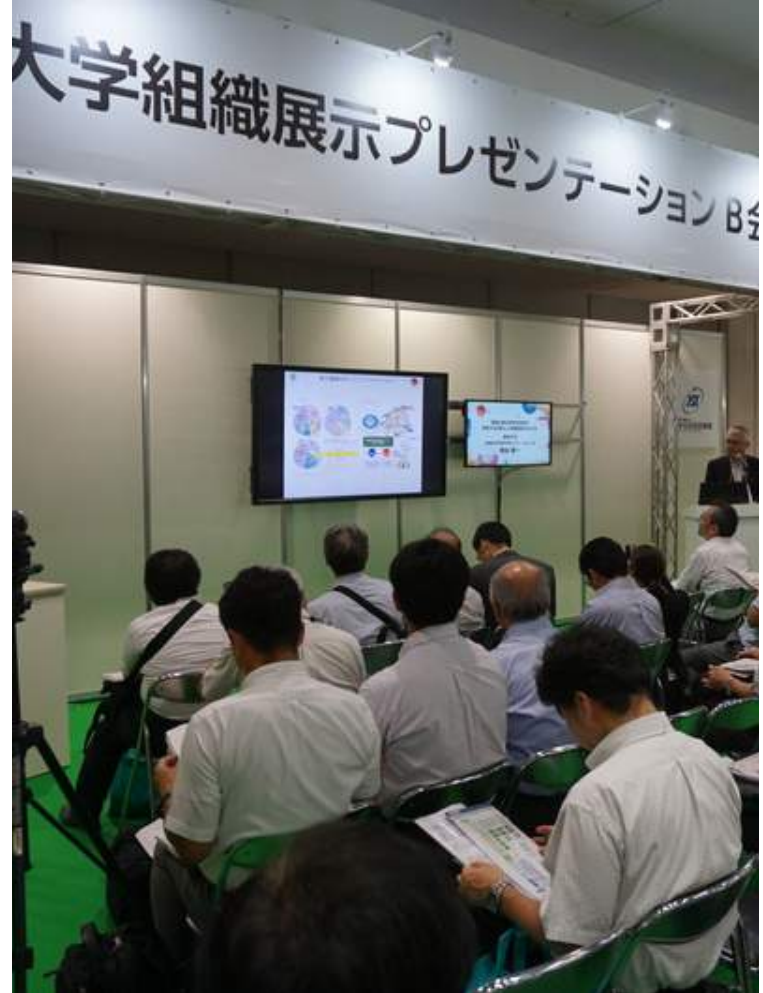
- (1) 食と健康の科学に係る人材育成
- (2) 食の安全安心に係る支援技術の開発
- (3) 食を通じた生活習慣病の予防・治療法開発
- (4) 食品の先端加工・製造技術の開発
- (5) 食品の新規機能性探索・開発によるブランディング支援

産学連携

～群馬の食は世界を目指す!～

センター設置から約半年の2018年5月に「食健康科学教育研究センターキックオフシンポジウム～群馬の食は世界を目指す、新しい群馬大学の地域貢献のかたち～」（於群馬県社会福祉総合センター）を開催しました。シンポジウムには、食健康に関する産官学の関係者約150名が参加し、群馬県の主要産業の一つである食品産業について議論を深めました。群馬の食は、シンポジウムの副題のとおり、世界を目指して大きな一歩を踏み出しました。

さらに、産学連携を加速すべく、2018年8月には、「イノベーション・ジャパン2018～大学見本市&ビジネスマッチング～」（於東京ビッグサイト西展示棟西1ホール）に参加しました。大学組織展示では、本センターの研究内容を展示し、プレゼンテーションでは粕谷健一センター長がセンターの活動と展望について紹介しました。センターのブースには、産業界、大学関係者及び政府関係者など多くの方々の訪問があり、改めてセンターの活動に対する社会からの期待の大きさを知る機会となりました。



イノベーション・ジャパン プレゼンテーション

専門人材の養成

～組織・世代の垣根を超えて～

今年度は大学院共通科目を3科目開講し、教育学研究科、社会情報学研究科、保健学研究科及び理工学部の大学院生が履修しました。学部の枠組みを超え、食と健康に関わる分野融合型の専門教育を実施しました。また、それらの科目の一部を公開講座として、地域社会において食品・農林水産分野で活躍している社会人に対して開放し、社会人の学び直しの機会も提供しました。

2年目は、この1年での反省を活かし、センター活動のブラッシュアップを図っていきます。また、現在、センターではオープンイノベーション型の産学連携に係る推進活動のあり方を検討しています。地方公共団体、地方産業界及び群馬大学が三位一体で取り組む仕組みを構築し、地域産業の振興及び社会における健康増進を加速させていきます。

[食健康科学教育研究センターHPはこちら](#)



群馬県内のイベントに学生が参加

実行委員長に聞く!!

群馬大学の学園祭

秋といえば学園祭シーズン。趣向を凝らした展示や模擬店はもちろんのこと、学生の日頃の活動の成果の発表の場でもあります。

群馬大学では、今年は荒牧キャンパスと桐生キャンパスで学園祭が開催され、それぞれ学生の学園祭実行委員が主体となり、特別な日を盛り上げました。

そんな今年度の学園祭の盛り上がりの様子を、2号に渡ってお届けします。12月号では、10月20日、21日に開催した桐生キャンパスの群桐祭をご紹介します。当日の様子や裏話などを実行委員長・畠中瞭さん（理工学部3年生）に伺いました。

当日の様子は?

10月20日、21日に開催された今年度の群桐祭が無事終了しました。2日間とも好天に恵まれ、小さいお子さんから大人の方まで多くのお客様に足を運んでいただきました。

当日は、26もの団体がそれぞれ趣向を凝らした模擬店を開き、そのバリエーション豊かな出店内容に回り切れなかった来場者の方もいらっしゃったようでした。

今年の見所は?

今年は、例年盛況だったテクノドリームツアーを改名して「サイエンステクノ教室」とし、VRやロボット操縦など、最先端の科学を身近に体験できる科学教室となりました。特に、UVレジンを用いたアクセサリー作りやペットボトルロケット教室は、例年お子さんに人気となっており、今年度も楽しみにして来場してくださいました。また、3D写真をお土産として持ち帰ることができるブースは在学生も多く参加していました。

ステージイベントでは様々な部活やサークルがパフォーマンスを披露し、アカペラやダンスバトルで会場を沸かせました。



群桐祭
2018

10/20 sat. 21 sun

実行委員になったきっかけは？

私自身は2年の春に実行委員に立候補し、先輩方からの後押しもあり実行委員長になりました。初めは期待の方が大きかったものの、仕事が増えるにつれて不安が募り弱音を吐いたことが何度もありました。そんな時に励ましの言葉をくれ、助けてくれたのは家族や友人、そして実行委員でした。特に実行委員は、皆忙しい生活を送っているにもかかわらず、ひとつひとつの仕事を確実にこなしてくれました。そんな彼らの姿がまた私自身に力を与え、時には意見でぶつかりながらも信頼しあえたことで無事に当日を迎えられたのだと思います。大変なことばかりでしたが、実行委員長をやらなければよかったと考えたことは一度たりともありません。

今まで多くの行事運営に関わってきましたが、自分たちの力だけでやり遂げる必要に迫られた中で、のトップとしての経験はありませんでした。頼られるためにまずは相手を頼ること、できないことは一人で抱えず皆で解決すること、相手の意見を理解する努力をしたうえで自分の考えを伝えることなど、この1年間で多くのことを学ぶことができました。実行委員長という一般的にはなかなかできない経験をさせてくれた先輩方にも感謝したいです。



Media-pick up

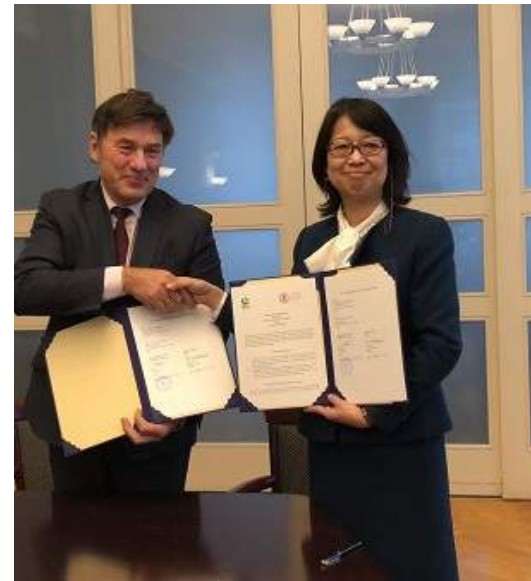
~11月にメディアで紹介された群大の最新的话题を一部ご紹介~



理工学部留学生交流会



教育学部・斎藤瑞己さん、全日エアロビク選手権で6連覇



リトアニアの大学と協定締結

その他

群馬大学内ベンチャー企業「グッドアイ」に群銀ファンドが出資

研究成果

教育学部にモンゴル国立ろう学校の教員8名が研修

イベント

地域の観光関係者と外国人財と協働で築く「観光日本語」ワークショップの開催

研究成果

医学系研究科・下川周子助教 肥満細胞の新たな機能を発見 寄生虫の新しい初期感染防メカニズムを解明

学生の活動

理工学部生らの団体「PCN前橋」が小学生対象のプログラミング教室を開催(11/11)

イベント

教育学部・斎藤瑞己くん、全日本エアロビクシニア男子シングルで優勝、6連覇

その他

リトアニアのヴィータウス・マグヌス大学と協定を締結

研究成果

生体調節研究所・佐藤健教授 神経作る働きのタンパク質を特定

イベント

たばこから母児を守る産学官民支援ネット「禁煙継続支援ネットワーク(WOMB(ウーム)ネット)」の設立

行事

～12月・1月・2月～

12月

DECEMBER

- 1,15 公開講座「Rで学ぶ統計学の基礎」
- 3 中央図書館 アゴラカフェ・ミニレクチャー
「アジアのネットカフェから見る インターネット利用の多様性」
- 6 中央図書館アゴラカフェ/ひとつばなし
「おとなのための絵本講座～ようこそ絵本の世界へ～」
- 6 保健学研究科国際シンポジウム
「モンゴルにおけるリハビリテーションの発展を目指して
－遠隔教育の可能性を探る－」
- 8 公開講座「トークカフェatPLUS+ アンカー
サイエンスカフェin桐生⑤」
- 8 理工学部小学生向けイベント
「アルゴリズムで脳を鍛えよう！」
- 9 中央図書館 尾崎喜左雄博士展トークショー
(清水群馬大学教育学部同窓会長・
右島群馬県立歴史博物館長)
- 13 前橋自動運転バス出発式
中央前橋駅－前橋駅間
- 14 生体調節研究所
前橋商工会議所まちなかキャンパス
「ここまでできるようになったバイオテクノロジー」
- 14 公開講座「ビッグデータを用いたマーケティング戦略」

1月

JANUARY

- 12 女子中高生向け実験教室「ホタルの光のサイエンス」
- 18 生体調節研究所
前橋商工会議所まちなかキャンパス
「肥満、糖尿病対策の現状とこれから」

2月

FEBRUARY

- 2 理工学部女子中高生向け実験教室
「チョコレートのサイエンス」

寄附のお願い【群馬大学基金】

本学では国立大学を取り巻く環境の変化に対応しつつ、学生に対する支援、教育研究の質の向上及び社会貢献活動の充実を図ることを目的とした『群馬大学基金』を2018年10月に創設いたしました。群馬大学基金は皆様からのご寄附によって運営され、本学を卒業された皆様、保護者の方々をはじめ、群馬大学にゆかりのある個人、企業・団体等の皆様等々からご支援をいただき、3つの事業（別表参照）に活用させていただきます。

そして、グローバル化に対応した教育研究を推進するとともに、地域の発展に貢献することを目指していきます。

(別表)

(2018年11月30日現在)

寄附による主な事業	これまでの寄附金収入 ※千円以下四捨五入
(1) 学生の修学支援に資する事業	27,958,000円
(2) 大学運営全般に係る事業	46,930,000円
(3) 重粒子線治療の普及・発展に資する事業 (重粒子治療基金含む)	746,408,000円

※ご寄附の際は、3つの事業のうちどれかをご指定ください。

みなさまのご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

詳細については、以下リンク先からご覧ください。

【群馬大学基金HP】・【2017年度活動報告書（PDF）】

群を抜く
駆けろ
世界を

発行元

国立大学法人群馬大学 広報本部

Tel:027-220-7010,7011

E-mail:s-public@jimu.gunma-u.ac.jp

URL:<http://www.gunma-u.ac.jp/>

発行日 2018年12月19日